

定年起業家

出張先で新潟日報に目を通していたら、「民家レストラン経営 板垣和子さん (64)」という見出しが目に入りました。「海と山北の旬 楽しんで」という副題がついています。

記事は、筆者が宿泊している集落の隣。旅館で聞くと、「歩いて5分」「ご主人は商工会の前事務局長」とのこと。それなら、ご主人には面識があります。仕事前に訪ねてみることにしました。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

宿泊先の旅館と隣あう碁石集落の間には、切り通しがあります。そこを過ぎるまで集落は見えません。逆に、集落に入ると他の集落が見えなくなります。集落の南北で海に突き出た小山が視界を遮ります。それ以外は遠浅の浜。夏には海水浴場となります。砂に混じる白黒の玉石が地名の由来。47世帯 120 人ほどが暮らす小さな集落です。

民家のリビングがお店です。「風のテラス仲」が店名。夫婦仲が風になるテラス？ 謎の店名です。店内にテーブルが3つあります。広いガラスから前庭の花壇、テラス、海と、視界が広がります。テラスに座ると、水平線上に浮かぶ粟島がくっきりと見えます。他には青空と白い雲。目の前には定置網の浮きや禁漁区を示す赤い旗。花壇にはパンジーが咲いて空の青と花の黄色が見事に調和します。冬の日本海からは想像できない爽快さです。

板垣さんは保育士として定年まで働かれています。その後、料理の腕前を活かして民



▲民家のテラスがお店の「風のテラス仲」(撮影 長井伸裕)

家レストランを開業されました。もともと、定年後2年間はお客様にらせる料理の勉強に通われので、開業は定年の2年後。週末の3日間だけ営業する完全予約制。座席数14の小さなお店ですが、海の眺望と地魚や地野菜の味が好評で、順調に予約が入るそうです。好きなことを自宅の仕事とする。理想的な定年後だと思えます。

拙宅の近所にも定年起業家がおられます。転勤族で定年になり、近所に終の棲家を求めると同時に、そこで喫茶店を開業されました。孫もおられるので「じじの家」という名前。地縁や人脈のない場所で「喫茶店でもやれば友達ができるから」と思い開業されたとのこと。肩のこらない店を維持されています。

定年後に、ローリスク・ローリターンの事業を起業する。そこが高齢者のサロンとなる。もっと広まると社会が面白くなりそうです。

(MBO 実践支援センター代表)